

AI・デジタル社会と活用

自己点検・評価報告書

令和6年度

甲子園短期大学

【趣 旨】

本報告書は、AI やデジタル技術の進展を受けた社会の変化に対応し、甲子園短期大学の教育の質の向上を図るため実施されている各授業において、AI やデジタル技術の使用状況等を客観的に点検・評価することを目的として作成するものである。

【目 的】

AI やデジタル技術の適切な活用を推進するために、現状の取り組みや実施状況を明確にし、今後の改善方針を明らかにすることを目的とする。

【令和 6 年度点検・評価の対象】

『IT 技術Ⅱ（全学科開講）』を中心に、AI やデジタル技術を取り扱う授業について、それぞれの履修学生の学習成果および学生による授業アンケートを対象とした。

【評価結果の判定】

評価結果に基づき、以下の 4 段階の評価レベルで判定を行った。

- ④ 優れた点であり、目標は十分に達成できた
- ③ 良い点があり、目標は概ね達成できた
- ② 目標達成が不十分であり改善点がある
- ① 目標がほとんど達成されていない

【点検項目 1】

AI・デジタル社会と活用は、本学の建学の精神と教育目的に合致している。

<評価>

建学の精神は、あらゆる生活並びに行動の基本で、これからの AI 化時代にも必要とされる理念であり、専門の職業に従事し社会の発展に貢献できるプログラムである。AI・デジタル社会と活用を導入することは建学の精神を推進することにつながる。

評価④

【点検項目 2】

AI・デジタル社会と活用の取組みは充分である。

<評価>

昨年度より追加された「IT 技術応用Ⅱ」の授業において、AI・デジタル社会と活用について扱っている。これに加え、全学科共通科目に「映像とデジタル表現」「IT 技術

応用Ⅰ・Ⅱ」を追加している。これらは、専門的知識や技能を実践的場面で活用できる内容となっている。

評価④

【点検項目 3】

評価結果を学内および社会に公開している。

<評価>

本学のホームページに掲載している。

評価④

【点検項目 4】

学習成果と達成目標が適切な方法で成績評価が行われているか。

<結果>

成績の基準と評価手段は講義概要（シラバス）に明確に記載されており、評価は厳正に行われている。特に「IT 技術Ⅱ」では、AI の活用方法に関するレポートの作成や、簡単な統計分析を実際に行う課題等を通じて、成績評価を行っている。一方で、筆記試験は実施していないため、そうした知識をどの程度身につけているのか（覚えているのか）という点については評価しきれていない部分がある。

評価③

【点検項目 5】

AI・デジタル社会と活用を支える人的、物的資源を整備している。

<評価>

情報機器ならびに設備については、計画的に更新している。情報処理演習室 1（203 教室）は、OS のバージョンアップ、ソフトウェアインストール等を行った。また、ラーニング・コモンズでは、学生が主体的な学びを通じて、問題解決能力の向上や発信力のスキルアップ等に努めている他、学生や教員からの要請に応じ、ソフトウェアのインストール等も適宜行っている。

評価④

【その他】

<IT 技術Ⅱ授業アンケート結果>

「IT 技術Ⅱ」の第 1 回目（欠席者は第 2 回目の冒頭）と第 15 回目の授業時間内に授業アンケートを行った。アンケートは成績に全く含まれないことを明示したうえで、AI やデータサイエンスの必要性・興味関心など複数の項目について「1：まったくそう思わない」～「4：とてもそう思う」の 4 件法で尋ねた。各項目において平均値を算出

したところ、「実際の統計データや大量のデータを、適切に読み解けると思う」という項目で事前 2.07→事後 2.42、「実際の統計データや大量のデータを、適切に説明できると思う」という項目で事前 1.93→事後 2.25、「実際の統計データや大量のデータを、適切に扱うことが出来ると思う」という項目で事前 1.93→事後 2.42 となった。このことから「IT 技術Ⅱ」の授業で、データサイエンスに関する技能や自信が身についたと考えられる。加えて、「AI（人工知能）」に対する興味を尋ねたところ、平均値が事前 2.67→事後 3.08 と向上していたことも示され、AI 等に関する興味関心を引き出せたのではないかと考えられる。

【最終評価】

以上を踏まえると、改善の余地はあるものの、本学における AI やデジタル技術の適切な活用や、AI・デジタル技術に関する授業は適切に展開できていると、結論付けられる。